

沙流川平取地区水害タイムライン 第2回検討会

平成28年2月25日(木)に平取町で「沙流川平取地区水害タイムライン第2回検討会」を開催しました。本検討会は沙流川の水害に対応する関係機関が出席し、さらに、胆振・日高管内の自治体や北海道開発局の札幌開発建設部等もオブザーバー参加されました。

「沙流川平取地区水害タイムライン検討会」は、平成15年の台風10号豪雨による災害をはじめ、過去に幾度も水害が発生している、沙流川平取地区をモデルとして、関係機関の連携による、住民の生命の安全と早期からの水害対応を実現するための各種検討を行うものです。

第2回検討会では、水害に対応する関係機関や平取町の職員がタイムライン策定に必要な行動項目や課題について検討し、検討結果の共有が図られました。



【実施日時】 平成28年2月25日(木) 13:30~17:00

【実施場所】 平取町中央公民館 大ホール

【参加者】 沙流川流域の防災関係機関 15機関 合計60名

開会挨拶

開会の挨拶では、平取町の川上町長は、大規模災害に備えて、万一の際にどう対応するのかという事前防災行動計画の策定に着手し、「いつ、何を、誰が実施するのか」について、あらかじめ計画して備えることは重要であると述べられました。

さらに、平取町は急峻な沙流川が流れ、過去にも歴史的に大きな災害に遭遇しているため、この検討会で策定されるタイムラインの導入により地域的な被害を始め減災につながることを期待していると述べられました。



ワークショップ

松尾座長から前回の検討会の内容と今回の内容が簡単に伝えられました。タイムラインが地域で作られられることの重要性と必要性も話されました。

1. 前回の振り返り 前回の記述内容について、事務局がまとめた概要を示しました。想定される被害は交通障害に関する被害が最も多く、実施する防災行動としては、情報収集と分析が最も多い行動でした。また、そのときの支障や問題では、情報伝達の手段が不足することが多く記述されていました。そのほか多くの意見が出され、その詳細は配付資料に示しました。

2. ワークショップ ワークショップでは、5つのグループに分かれ、前回出された防災行動を災害シナリオに対して、「いつ」行うのか?の行動タイミングを整理しました。また、さらに追加する行動項目も提案していただきました。意思決定グループは他グループとは別に「防災情報や体制の切り替え」のタイミングについて整理しました。最後に、模造紙に並べ替えられた防災行動をグループ毎に発表し、松尾座長による講評や質疑応答が行われました。



全体講評

●藤間聡副座長 タイムラインは、既存のハザードマップや防災計画と違って「いつ」が想定されており、実際の運用に効果的であるとコメントされました。また対策本部の設置や避難情報の時期が不明であることに戸惑いを感じているグループもあったとコメントいただきました。さらに、意思決定グループで行われた検討は、対策本部の設置基準として大雨・洪水警報と総降水量300 mmを使ったことや避難判断水位到達前に避難完了を検討していることについて、画期的な検討であったとコメントされました。

●黒木アドバイザー 意思決定グループによる0アワー、各機関が持つ防災行動計画とタイムラインの関係についてのご意見をいただきました。また、同じ言葉の行動項目及び細目でもグループによっては意味が異なる「同音異義語」の存在や各種情報の選別・整理が重要であるとコメントされました。

●志田アドバイザー 情報の取捨選択に関して、情報の発信者と受信者両者の歩み寄りによって、情報発信受信方法の改善や効果的方策の検討が重要であるとコメントされました。

